

幼児期の言語環境

2024. 6. 24

リーディングスキルというものがある。汎用的な基礎的読解力である。0歳から6歳のアプローチ期は、人が言語環境の素地を養う重要な時期にあたる。幼児は、系統立った学習を経ずして、日本語という一つの言語を習得していく。これが、いかに驚くべきことかは、大人が外国語を習得しようとするときの困難さを思えば容易に理解できる。

人の言語習得能力値を見ると、言語習得の臨界期が幼児期であることがわかる。このことから、アプローチ期の言語環境がいかに大切かを知ることができる。この能力は、幼児期に臨界を迎えた後、中学卒業時には半分以下に下がっている。このことが、高校以降にリーディングスキルが伸びない理由の一つとなっている。

幼児期の子どもたちに、いろいろと質問をすると、だまりこんだり、聞かれていることとは関係ないことを話したりと、うまく答えることができないことが多い。もちろん、厳しく迫る必要はない。ではどうするか。質問されたことに合った正しい答えが言えるように待ってあげたり、「○○って言うんだよ」と答え方を教えてあげたりすることで、次第に答え方を身に付けていく。周りの大人が、粘り強く付き合っただけでいいことが大切である。

幼児期の子どもたちとおしゃべりをすると、主語や述語を省略して話すことが多いことに気付かされる。例えば、おなかが減ったときに「おにぎり」と主語だけを言うようなときである。このとき、「ああ、おなかがすいたんだね。はい、おにぎり」と大人が意思をくみ取ってしまうことがよくある。これでは、正しい意思の伝え方を学ぶ場面を奪ってしまうことになる。「どうしたの？」と優しく問い返して、正しく意思を伝える練習に付き合っただけでいいようにするべきである。

また、幼児期の読み聞かせは、楽しいだけでなく、子どもたちにたくさんのお話を教えてくれる。その一つが、正しい日本語である。日常会話では、あまり使わない語彙や言い回しもたくさん出てくる。ぜひ、たくさんのお話を聞き聞かせてあげることが大切である。

これらのことを実践していくために、一番大切なことは何か。幼児期の子どもたちに接する大人が、心を落ち着かせていることではないだろうか。イライラしているときに、「どうしたの？」と優しく問い返すことができるだろうか。読み聞かせは、どうなってしまうのだろうか。心の平穏が重要である。

生活していれば、いろいろなことが起こる。とてもとても平穏ではいられないこともあるだろう。だが、幼児期は言語環境の素地を養う重要な時期である。子どもの前では、笑顔で優しく話しかけるようにしたい。

教師は、自分の心の状態を認識し、安定した落ち着いた状態でいられるように努める必要がある。イライラしたり、落ち込んだりしているときは、幼児の心の動きに寄り添い、幼児と同じように感じていくことが困難になる。それゆえ、ときどき自分の心の状態を冷静に見つめ、不安定にしている要因があれば、それを取り除くように努め、心の安定を図ることが重要である。